

そよかぜ診療所／はるかぜ診療所での研修を終えて

神戸大学医学部附属病院 初期研修医（2年目）

荒井 健太

たすきがけコースの私は、2年目の4月から大学病院勤務が始まりました。ようやく院内施設の配置や大学での研修生活に慣れてきた頃、5月の地域医療研修のチームが始まりました。慣れない土地での住み込みでの研修。寝泊まりするところは綺麗なのか...？「昼食は岡本家で」ってどういう意味...？楽しみ半分不安半分で、朝来の地へ向かいました。

来てみるといい意味で予想は裏切られました。とても綺麗で清潔感のある院内や研修医室。優しく暖かく迎え入れてくださるスタッフの皆様。美味しい家庭的な料理を毎日振る舞ってくださる岡本家の皆様。たまに先生方のお孫さんと一緒にご飯を食べることもあり、歳の離れた妹がいる自分としては、久しぶりの赤ちゃんと交流が密かな楽しみとなっていました。

勤務としては、8時～12時：午前の外来、13時半～15時半くらい：訪問診療、16時～18時：午後の外来、が基本的なスケジュールです。外来の時間は処置室で採血をしたり、レントゲン撮影をしたり、頸部エコー・心エコーをしたりします。今までの先生方も書かれています、特にエコーをさせていただいたのは非常に貴重な経験でした。今まで心エコーを自分一人で行う機会はほとんどありませんでしたが、先生方に丁寧にご指導いただいたおかげで、最後にはある程度自信を持って検査を行うことができるようになりました。

訪問診療では1ヶ月間でたくさんの方々のお宅や施設にお邪魔しました。患者様からすれば、せつかく先生と直接お話しできる訪問診療の機会に、初めて見る若い研修医が来て残念に、不安に感じさせてしまったかもしれませんが、皆様優しく受け入れてくださり、訪問診療の現場をじっくりと学ぶことができました。持ち合わせた道具を使ってその場で処置をしたり、場合によっては今日検査しようと言って午後の診療に来てもらうよう説明したり、大きな病院とは全く違う角度からの診療を見られました。状態が悪化した患者様を前にした時、「とりあえずCT撮りたいな」と考えましたが、CTを撮るにも別の病院まで行かなければならなかったり、そもそも患者様とご家族が精査を希望されていなかったりで、“不自由な”環境での医療や、患者様ごとの考え方の違いなど、たくさんの普段と異なる経験をさせていただきました。

また、秀樹先生と今後の医師としての働き方など、医学知識だけではないお話をさせていただいたのが印象的でした。秀樹先生は広い視野で的確な分析をされており、また実際にそのお考えを行動に移されており、お話しさせていただく中で自分の考えをアップデートするきっかけを下さいました。研修医室には分野横断的に様々な書籍を置いてくださっており、我々研修医にも多角的な視野を持つようにとのメッセージを感じました。症例発表に際して行動経済学の本を読ませていただきましたが、こちらも非常に興味深い内容で、新たな知見を持ち帰れたことを嬉しく思います。

自然豊かな朝来での1ヶ月間は、私を医師としてだけではなく人間として成長させてくれたように思います。生涯学習を続け、自己研鑽に勤しみたいと心から感じました。秀樹先生、静子先生、黒瀬先生、看護師の皆様、スタッフの皆様、岡本家の皆様。関わってくださったそよかぜの皆様本当に感謝しております。

唯一の心残りはコウノトリに会えなかったことです。またコウノトリを探しに、桜の時期の竹田城を觀に、朝来に伺いたいと思います。

朝来の、山東の皆様のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

1ヶ月間本当にお世話になりました。ありがとうございました。